

第4回 台東区区民憲章策定区民会議 議事概要

日時：平成18年4月27日（木）19～20時30分

場所：台東区役所1001会議室

次第

1 議事概要確認

2 議事

（1）報告事項

台東区民憲章アンケートの集計結果について（資料1）

（2）審議事項

台東区民憲章の形式について

子どもアンケートについて（資料2）

草案作成グループについて

次回日程について

配布資料

第4回 台東区区民憲章策定区民会議次第

資料1 台東区民憲章アンケート集計結果

資料2 台東区子どもアンケート

議事概要

懸田会長

- ・ 事前配布されていた前回の議事概要について、何かご意見はありますか？問題がなければ、近日中に区のホームページに掲載させていただく。

（意見なし）

（1）報告事項

台東区民憲章アンケートの集計結果について

- ・ 現在の台東区のイメージとして「上野・浅草」が第1位となっているが、その具体的内容である「上野の森などの緑」「人情味のある温もりのまち」「江戸・明治期からの歴史的な資産」などについては、高齢層と若年層で認識に開きがみられる。これからの将来を担う若い人たちに、「上野・浅草」の具体的内容の認識を深めてもらうために、区民憲章では、「上野・浅草」という地名に代わる表現を強調した方がよい。

- ・ 「上野・浅草」については、区外居住者の方が認識が高くなっている。この結果は、「上野・浅草」については、地名がその具体的内容よりも認識が高くなっていることを示しているのではないだろうか。
- ・ アンケートの集計結果は、おおよその区民のイメージとして捉えておいた方がよい。
- ・ 若い世代で、高齢の世代と比較して回答率が低くなっている項目が目立つ。例えば、「人情味のある温もりのまち」や「困ったときは助け合い、楽しいときは喜びを分かち合える近所づきあいのあるまち」といった項目に対する30代の回答率が低くなっているが、これは子育て世代が近所の協力を得られていないことによるものと推測できる。全体的な台東区のイメージは40代以上でつくられているように感じられた。
- ・ 全体として「上野・浅草」の回答が高くなっているが、その実態を正しく認識しているかどうか疑問を持っている。区民は、上野駅がかつて東北地方の玄関口であったことから過大に評価しがちだが、山の手線の駅の中では取り残されている感がある。若い世代で「上野・浅草」の回答率は高いが、その具体的内容に関連した項目は回答率が低いのは、客観的な事実を敏感に捉えた結果と言えるのではないだろうか。
- ・ 人間は加齢するに従って、歴史や文化に対する関心が高まってくるので、アンケート結果における年齢格差にそれほど神経質になる必要はない。
- ・ 「安全で、安心して暮らし続けられるまち」の20代の回答率は54.5%となっている。区民憲章では、こうした将来に渡って住み続ける意志を持った若い世代を対象として捉えることも大切だと感じた。

(2) 審議事項

台東区民憲章の形式について

(事務局) 前回の議論を踏まえて、台東区民憲章の形式については、前文・本文からなる定型的なものであり、本文は5か条からなるものであるということを決定してはどうか。

- ・ 5か条は妥当な箇条数と思うが、5か条を金科玉条のように捉えて、これまで議論を積み重ねてきた盛り込みたい内容を省くようなことは避けてほしい。

懸田会長

- ・ 前文と本文の定型にすることはご了解を頂いている。5か条は、起草するにあたっての目安とすることとする。
- ・ 台東区の花である朝顔や台東区の木である桜を、区民憲章に盛り込んでどうか。他の憲章ではあまりみられないが、区の象徴を盛り込むことによって区民としての自覚も高まるものと思われる。
- ・ 台東区のイメージにつながるものがあまり思い浮かばない気がする。

懸田会長

- ・ 文章だけでなく視覚的にも訴求力のあるものを盛り込んでどうか、というご提案と受けとめることとする。

子どもアンケートについて

- ・ 問1の選択肢にある「粋」は、東京育ちの大人が感覚的に使用する言葉であり、子どもはそれらを聞いて覚えていく言葉であるように思う。
- ・ 教師によって「粋」の説明に差があり、それによって子どもの回答にバイアスがかかることが懸念される。
- ・ 選択肢ではなく自由回答方式にした方が、子どもらしさが出てくるのではないか。
- ・ 町会の会合で約30名を対象に、台東区のイメージを自由回答方式で記入してもらったところ、問題なく回答してもらうことができた。小学生、中学生でも、自由回答方式で問題なく記入してもらうことができると思う。
- ・ 「粋」は、花柳界で生まれた言葉で、反対語として「野暮」がある。江戸仕草の中の1つの言葉であると思う。「いき」とひらがなで表現すれば、他にも「息」「活」「生」などと解釈することもできる。漢字の「粋」に拘らずに、曖昧なまま「いき」という表現の方がよいのではないか。
- ・ 子どもの中にも浅草に住んでいるという心意気がある。選択肢方式ではなく、自由に書かせる方が、子どもの生の声を捉えやすくと思う。
- ・ 「住んでいるまち台東区について何を思い浮かべますか。3つぐらい回答してください」と回答した方が集計しやすいのではないか。
- ・ 台東区は、「怖い」「汚い」というイメージが強い。子どもアンケートで、そうした回答が集まることはそれほどないと思うので、自由回答形式でよいと思う。
- ・ 問2については、一般アンケートよりも、もう少し選択肢を増やした方がよい。また、選択肢の並びについては順序が回答に与える影響を考慮してほしい。
- ・ 一般アンケートの自由回答の中にも、マイナスイメージが回答されているので、子どもアンケートでは、そうした回答がもっと多くなることが懸念される。選択肢の「その他」欄に、自由回答を設ける方がよいのではないか。
- ・ 問2の質問文は、「大きくなって」「おとなになっても」という表現が重複してわかりにくいので修正してほしい。

懸田会長

- ・ 子どもアンケートの調査票の設計については、各委員の意見を踏まえ、学識委員の方で預らせてもらうこととする。

(一同異議なし)

草案作成グループについて

(事務局) 草案作成グループの編成は、学識経験者から1名、公募区民から6名の計7名程度とする予定である。メンバーは、会長、副会長と相談のうえ、次回の全体会で選出させて頂きたい。

- ・ 5月半ばから6月半ばまで、どこかの地区で必ずお祭りが開催されるので、委員の出席率が低下することが危惧される。

(事務局) 草案作成グループでは、6月中旬以降、同月下旬の全体会を挟んで、集中的に討議して頂きたい。

次回日程について

(事務局) 次回全体会は、5月25日(木)に開催する。今回は、草案作成グループの選出メンバーと、本日までのグループ会議の結論をご報告する予定である。子どもアンケートについては5月中に実施予定であるため、全体会では集計状況や速報値をご報告したいと考えている。

<三輪副会長より>

- ・ これまで区民憲章の意義について十分に議論してきたが、今後は、前文と本文それぞれの意義を強く意識しながら議論して頂きたい。
- ・ 前文の意義は2つある。1つは、区民が自らを知るきっかけとなること、つまり区民が自分の住んでいる場所など地域を理解できることである。もう1つは、外部に対して台東区民の立場や気持ちなどをメッセージとして伝えることである。
- ・ 本文は、区民憲章の主体となる人だけに意義があればよい。声を出して読んだ時に愉快になる、気持ち良くなることが大事である。また、ひとり一人が自分にできることは何か、具体的なイメージが伝わるものでなければならない。以上の点を踏まえ、有意義に議論を進めて頂きたい。

以上